



# ご勇退される 方々より



## 忘れられない一言



松前町立松前小学校  
庄司 勝

大学へ入ってはじめて教師になる学校だとわかった。教師は一番嫌いな職業であった。大学は遊び過ぎてギリギリで卒業。今でも単位不足で卒業できないのではとハッと目が覚めることがある。日高へ赴任。貧乏で修学旅行以外、函館を離れたことがなかった。車中、だんだん心細く不安になる。でも、心はまだ学生気分。駅に着くと鈴木先生が迎えに来てくれていた。「先生ですか?」。この一言を今でも忘れることはできない。

「先生」と呼ばれて、すごいショックで体が震えた。この瞬間から自分は先生なのだ。学生気分も吹っ飛んだ。気を引き締めた。以来三十八年間、無我夢中だった。先生と呼ばれ続けた。先生と呼ばれることは重かつた。この言葉から解放される。うれしい!でも、素敵な職業に携われたと感謝している。

## 回顧



福島町立白符小学校  
佐藤 修一

夕陽会諸先輩のご指導の下、どうやら三十八年間の教職生活を終えることができます。深く感謝申し上げます。

この間、一市四町、七校を経験させていただきました。

出発点は檜山、毎日のように先輩教師から厳しい指導を受けました。「プロの教師たれ」「教育は心」「教育は人」頭にたたきこまれました。数校を経て自分が後輩の指導をする立場になった時、若きころの先輩の言葉が再びよみがえり、先輩に感謝したものです。時代は変わりましたが、「和して同せず」これがここ数年の自分の信念です。

「生きる力」が今日のキーワードになっていきます。子どもたちそれぞれ、「生きる力」を持っているはず。それを引き出すのが教師、今も思っています。退職後しばらくは、心の整理をしようと考えています。

## 懐かしい思い出



知内町立知内小学校  
中村 政雄

振り出しが空知管内三笠市で、同窓の方はそう多くはなかった記憶があります。そして、多くは管理職でした。親子ほど年齢が違い、ここ数年若い同窓の赴任がなかったこともあり、「遠い所、よく来た、よく来た。」と欲待された記憶もあります。今のような車社会でもないので故郷を遠く離れたせいもあり、同郷意識も混在し仲間意識が強くなったのだと思います。それとともに、ほぼ全員が教員や教育に関係する職という、職業という面で単一の組織のせいもあり、一層仲間意識が強くなったような気がします。年一度は家族も含めて集まったりし、大変なごやかな雰囲気でした。渡島に来ると周りは圧倒的に同窓が多くそういう強い意識は薄くなっていきました。でも、多くの方々にお世話になりました。折に触れ懐かしく思い出します。

教員採用が難しくなり、大学の改革などもあり、色々な職業に就く後輩の方々が増えていくと思います。時代に合わせ同窓会もどう変わっていくのだろうと思ったりするこの頃です。

## 「夕陽音楽会」のこと



木古内町立木古内中学校  
木村 映之

昭和四十二年、南茅部町立白尻中学校教諭を第一歩として、以後一市五町、三十八年間の教職生活を終える事となりました。夕陽会の思い出は何と云っても「夕陽音楽会」の事です。

昭和五十二年に第一回を開催以来、今年一月十六日に第八回音楽会を開催する事ができました。私は第一・二・四・六・八回にはステージに立ち、それ以外の回は実行委員として関わってきました。今回の第八回演奏会は、私にとって退職記念となるステージで、大好きなシューベルトの歌曲を歌うことができました。たのほとてもよい思い出になりました。

夕陽会渡島支部も、大学改革、学校統廃合、町村合併等多くの困難を抱えています。皆様の尽力で「行動する夕陽会」がさらに発展されますことを祈念申し上げます。

## 定年を迎えて



上磯町立上磯中学校  
佐藤 竹彦

昭和四十三年四月松前町立松前中学校教諭を出発点とし、八町十校に勤務し、この度三十七年間の教師生活を終了することになりました。

振り返ってみると、各勤務地において様々な課題に直面し、一部改善、あるいは、課題解明に若干たずさわれたことを幸せに思っております。

今までは学校組織を中心とした生活が主だったわけですが、今後は個人が主になると思いますが、いわゆる生活場面と意識の問題ではないかと、あえて割り切り、余生ではなく、生ある限り自己実現をささやかな目的として生活しようと準備をしつつあります。

最後に、夕陽会の益々のご発展を祈念し、長い間のご支援に感謝しお礼の言葉といたします。長い間、ありがとうございます。

## ひと区切り



上磯町立浜分中学校  
佐藤 光豊

定年を迎え、最近特に強く思うことです。時間と空間の中でこれまで、つくづく私は「生かされているのだ。」そのことに感謝しなければならぬという思いを強くしております。

私の教職生活は、三十八年間で、一市三町、小学校二校十年と中学校五校三十八年間であります。この三十八年間は瞬間の短い時間に感じられます。

私の場合、ただ子供が好きだからの思いだけで教職に就きました。ですから未熟ゆえに周りの方々にご迷惑をかけることも少なからずあったと思います。

定年を迎え、教職生活を終えるに当たり、これまで出会った多くの方々にご指導いただき、助けられながら、楽しく充実感や満足感を与えていただいたことに感謝しております。

今、自分の心にひと区切りをつけて自分を活かす新たな生活を築いていこうと思っております。

## 夢は果てしなく



大野町立大野小学校  
飯田 正子

子どもの頃からの夢とあこがれの教師になつて早三十年が過ぎました。その間、好きな教師でいられる幸せと、子育てに奮闘し教育現場での諸先輩方からの日々の実践により、励みを受け私自身も大きく成長することができました。

落部小学校を教職生活の出発点とし、戸井町や上磯町、大野町で多くの人と出会い、子どものことで真摯に話し合いができたことが懐かしいです。つくづく子を想う親の願いの深さと尊さを知りました。

より多くの方々からの支えを基盤に今後の生活を深く見つめていきたいと考えております。

人と支えあいながら、生涯学び続けること、これからも私の夢であります。

世界中の子どもたちが優しい気持ちを持つことができるようにと願っております。

## ときにはプレイヤーに

七飯町立大中山小学校  
門脇正和

物事という一つの舞台を想定したとき、演出する人、出演する人、観客とで成り立っていると考えられる。とかく我々は観客側に立ちたがる傾向がある。それは楽だからである。一見批評家めいた口ぶりで、無責任に対応しても別に問題にはならない。誠に都合のいい立場である。演出者はテーマとその構想を如何にプログラム化していくかを考える。出演者は観客に如何に認められるかを念頭に置き、演出者の構想を実現して行く。

さて、私の六十年間の人生でどのようにバランスをとってきたのだろうか。常に観客席にいたような気もするし、力もないのに演出者や出演者になろうともがいていた自分も発見できる。何れの自分でも、夕陽渡島の皆様方の多大なご支援があればこそであり、心より感謝とお礼を申し上げます。

数え切れない程の人との  
出逢いに感謝して七飯町立大中山小学校  
小棚木省一郎

雄大な日高山脈と広大な十勝平野の中心帯広市に一步を記したのが三十八年前。二十八学級の大規模校を振り出しに三学級の複式校、当時初めてと言われた新設のオーブンスクールで新しい教育を拓こうと仲間と熱く語り合った頃のこと、また日本の極寒の地陸別町でのマイナス三十度の体験等、過ぎ去った時の流れの速さに只驚くばかりです。八雲町知内町を経て最後の赴任地大中山小学校。障害児学級の経験はあったが、自閉症の子どもとの関わりは初めて。

文字通り一からの再スタートでした。常日頃「前向きにそして謙虚に学ぶことを忘れず」と自らを戒めてはいたものの試行錯誤の繰り返しでした。でもここでもやはり温かく支えてくださった仲間があり、無事退職を迎えさせてくれるのだと…今改めて「人との出逢いに感謝」

我以外  
皆我師七飯町立大中山中学校  
岩上猛

歳月はあつという間でした。永い間お世話になるばかりで、険しい山道も皆さまのおかげで越えてきました。

大学では理科を専攻し、岩石の勉強を少しかじりました。昭和四十二年四月、幌泉町立幌泉中学校（現えりも中学校）三年D組の担任として、教職生活を出発しました。ジャモン岩質の日高山脈が緩やかに海底に没するえりも岬の絶景、悠久の地でもあります。

その後、三十八年間の教職生活を全うし、定年退職を迎えます。その間、住まいのことから、教育のことなど、全てのことについていろいろな方にお世話になり、ご迷惑をおかけし、何も恩返しできず、申し訳なく思っております。

ただひたすらに子どもと一緒にいることの幸せを感じてやっています。幸せ者です。

## 皆様に支えられて

函館市立戸井西小学校  
溝口健一

昭和四十二年四月、胆振管内に豊浦町立山梨小中学校へ赴任。雪深い山脈での生活は、心細く不便を感じたが、先生の温かな言動に励まされた。中でも同窓で教務主任の古谷先生には、懇切丁寧に指導していただき、食住の面でも大変お世話になった。三年後、私は渡島管内へ。それ以後お会いする機会がなかった。

昨年の夕陽会総会・懇親会で名簿を見て驚いた。さっそく席へ向かった。昔と変わらない大きな厚い手から当時の温もりが伝わって目頭が熱くなった。

三十七年前の学校や地域の様子が昨日のように甦り、話が弾んだ。その中で、赴任当初、明るく振る舞っていたが、懐かしそうに何度も函館の話をする私を、心配してくださった先生方がいたことを初めて知った。

多くの皆様に支えられ、導いていただきましたことに感謝。

## 支えられて



函館市立潮光中学校  
鈴 木 勝 機

初めて狩勝峠を越え赴任したのは釧路管内の炭鉱町でした。着任した日、底冷えのする職員室で会議は延々と続けられました。その時の山肌を紅く染めていった夕陽を今も鮮明に思い出します。数か月後、違う「沢」をこれまた十キロ以上入った学校から、同窓の方が一日かけて激励に来てくださり、大いに勇気づけられました。

以来、渡島、函館と勤務する土地は変わっても夕陽の皆様は陽に陰に支えられての三十八年間でした。今思うと赤面することばかりでしたが、おかげさまで自分なりに満足して教職生活を終えることができ、心から感謝申し上げます。

教育界には大きな期待と幾多の課題が押し寄せていますが、「寮歌」の気概でこれらを成し遂げると共に、本会が益々発展されるようお祈りいたします。

## 退職にあたって



函館市立えきん小学校  
池 田 義 博

日高、渡島、函館と計九校三十八年間の教職生活だった。希望しての僻地校勤務であったが、水道施設や電話もなくテレビさえ映らない三級地十年間の生活はやはり厳しかった。

ただ、当時の父母・教え子達との交流は今も続いており、むしろ懐かしく思い出される。教職について間もなく始まった主任闘争、協定書による職場闘争。その「闘争」の戦列にいたこともある私が、やがて学校経営の責任ある立場となり退職していく。万感の思いが込みあげてくると同時に、今、それなりに担ってきた重責を降ろす安堵の喜びと一抹の寂しさが、ほろ苦く忍び寄っている。

今後の設計図はまだできていない。人様に迷惑をかけず、健康に留意して生きていこうと思おう。これまで支えてくれた夕陽の皆さん、本当に有難う。

## 燃える心を持つて



函館市立木直小学校  
飯 田 幸 三

児童（小学校）生徒（中学校）とともに育った三十八年間であった。教師になってからずっと、そして、これからも自分の名前のごとく生きたい。

『い』一番を指し挫折を恐れず『い』いい友こそが我が人生を薔薇色にすると信じ『だ』誰にも負けない愛する気持ちを持ち『こ』困難を乗り越える快感を忘れず『う』美しい心でいつも接し『ぞ』ぞっこん惚れ込む心で事に当たり『う』浮かれすぎず自重する謙虚さも持つ。いつも遊び心を持ってば病氣も飛んでいく。この心で全精力を教育に打ち込んだ。プラスチックを買って魚を釣ったり、アマ無線を楽しんだり、畑を手に入れ晴耕雨読。短い人生だからこそ「先見」を大切に生きれば、燃える心で若々しくなるのではないか。これからも磨き磨かれる人生を歩みたい。

## 私の夢



砂原町立さわら小学校  
守 田 君 子

あつという間に還暦を迎える年齢になってしまった。

生まれつきののんびり屋で、面倒なことは後でと考え、切羽詰らないと腰をあげない。もっと早くやれば、楽ができたのにと何度反省したことか。学生時代のレポート提出もぎりぎり、最初の赴任地日高でも教材研究をサボって「明日、休みにならないかな」と布団の中で願ったことを思い出す。

これまで大変なことはいっぱいあったけれど、何とか私流の調子で乗り切ってきた。

在職中は、やりたいと思っていたことがたくさんあったけれど、さて、実際に暇だらけになったら、やる意欲は失せてしまわないだろうか。

最近、夢を語る大人が少なくなつたように思う。孫たちに「大きな夢」を抱き続けるよう応援することが、私の夢である。

## 家族に感謝



砂原町立砂原中学校  
石原 佑一

教職生活に身を置き、職務を果たすため、仕事に集中してきた。仕事を第一に、家族を第二である。長男が産まれた時、すぐに、病院に駆けつけることができなかつた。そんな自分を妻はどんな思いでみていたろうか。

道徳の時間の「足袋の季節」の主人公を思い出す。自分の歩んできた生き方が良かったのかを自問自答している。

函館市の中学校勤務を十五年間挟んで、松前町から長万部町と渡島六町の中学校を経験し、地域の人と交流し、たくさんの方々ができた。人との出会いの喜びは、妻も同じであると思う。定年後の生活は、妻を大切にやり残した自分の仕事に集中したいと思う。地方競馬のハルウララのようにナンバーワンになれなくとも、人に感動を与える人になりたいと思う。

## ガリ版からパソコンに



森町立赤井川小学校  
高木 国世芝

私の教師としての仕事は、ガリ版をうまく熟すことから始まったといえる。

新卒で赴任した小学校は全校三十名ほどの小さな学校であった。三年生担任となったが、どんな授業をしたかはほとんど記憶にない。しかし、ガリ版を一生懸命切ったことは鮮明に思い出される。

ガリ版に欠かせないヤスリは学校を定期的に訪問してくる業者から購入した。「堀井」と商標されたヤスリは、方眼・斜眼・宋朝などその数ざつと十数種類はあった。五年後ぐらいに謄写ファックスが導入され、タイプライター、ワープロが普及され始めるにあつという間にガリ版は消滅した。

教師の三種の神器の一つであったガリ版にかわって、パソコン、携帯電話、乗用車になった今、ガリ版経験者は退職する。

## 奥尻町神威脇



森町立濁川小学校  
齊藤 亘

道内で一番遅いであろう夕日を眺めた奥尻町立神威脇小学校。そこが、三十八年間の教職生活のスタートの地です。その後、今日まで九校に勤務しました。

それぞれの地に思い出があります。神威脇は忘れられない場所です。

それは勤めた年の秋に、盲腸になった事です。地域の人は、船が出せないで、病人の私を戸板に乗せ、落ちないように縛り、救急車までの獣道を走って運んでくれました。八キロの道を交替で担いだと聞きました。お陰様で無事手術が済み、二週間後には退院できました。学校まで車の通る道の無い時の話です。

神威脇小学校は廃校となりました。連絡の取れる教え子も数人になりました。しかし、私にとつては決して忘れることができない教員出発の地、それが、奥尻町神威脇なのです。

諸々な事に挑んだ  
三十八年間

森町立森中学校  
林 俊郎

昭和四十二年四月、大野町立萩野中学校を振り出しに、国立の中学校を九校と五年間の市役所生活を経験した。

教科教育や長期休業中のレクなど生徒と楽しく触れ合ったことや生徒指導で苦労したことも今では思い出の教諭時代…。

他方、昭和五十年頃、地区労や職員団体の幹部として苦労と共に勉強にもなった。

附属中時代は、本業の他、夕陽会調査部員として同期のみなならず、他の期の名簿確認作業をしたり、同期会旗揚げもできた。

市教委時代は、学校現場と違つて講演や函館市の社会教育施設整備構想策定等、教員生活では経験し得ないやり甲斐のある仕事を経験させてもらった。

校長時代では、比較的規模の大きい一町の中学校を三校経験し、危機管理に奔走したことが思い出となった。

人として生きる



八雲町立栄浜小学校  
吉岡 宏

最近の報道を見聞きする度に人の生命が、短絡的に奪われている。人権を叫ぶが、人権や法が遵守されていない傾向が、あまりにも多すぎる。

ものごとには、順序がある。順序とは、ものごとの理法であり、秩序である。共同体の最も小さいのが、家庭であり、小学校：地域社会へと同心円的に拡大していく。最終的には、国家になり世界へと拡大する。家庭における理法即ち、愛も欲や金に左右され、純粹な心は、どこへ消え失せたのであろうか。「未足」の世界即ち、物質的には恵まれているが、精神的に満足していない社会を言う。

人は、人により生かされていることを知るべきである。感謝の心を失えばたちまち大柄な行動が多くなる。信頼が失われれば、共同体は崩壊する。人として誠実に生きたいものである。

学びに感謝



八雲町立野田生小学校  
木代 矩正

三管内、二市三町の教育生活を終え、定年退職を迎える。振り返ると、多くの先輩達や地域の方々に学ぶことの連続であったと思う。北海道は広く、その地域特有の風土がある。それを体験できたのも教育という職に携わることができたおかげであると感謝している。

釧路管内の音別町では、初めてスピードスケートを学ぶ機会を得た。リンクを造るのも初めての経験であった。苫小牧市では、アイスホッケーがいかに格闘技であるかを体験した。渡島では、よき先輩達に学ぶと共に夕陽会のありがたさを実感した。老兵となり教育界から去るにあたり「教育は徒弟制なり」という言葉を強く感じている。現場に残る後輩には、今後の教育を託するとともに、ますますの発展とご自愛を心より願っているものである。

夕陽渡島 勇退者激励感謝の会



長い間本当にご苦労様でした



川合支部長の主催者挨拶



会場に響く寮歌大合唱



明日に向かって乾杯!!

# 合 眾 中 國 郵 政

總發行所：上海

本報地址：上海南京路

電話：二二二二

零售每份五分

廣告費另議

訂閱費另議

郵費在內

本報代售處

上海南京路

本報發行所

上海南京路

本報印刷所

上海南京路

本報廣告部

上海南京路

本報編輯部

上海南京路

本報經理部

上海南京路

本報會計部

上海南京路

本報庶務部

上海南京路

本報印刷部

上海南京路

本報發行部

上海南京路

本報廣告部

上海南京路

本報編輯部

上海南京路

本報經理部

上海南京路

本報會計部

上海南京路

本報地址：上海南京路  
電話：二二二二  
零售每份五分  
廣告費另議  
郵費在內  
訂閱費另議

本報廣告部  
上海南京路